断夫山古墳について

断夫山古墳（だんぷさんこふん）

所 在 地 ：	名古屋市熱田区旗屋一丁目 1014 番地	
指定面積 ：	既指定面積	14,694.05 ㎡
	今回追加指定面積	8,499.42 ㎡
	合計面積	23,193.47 ㎡

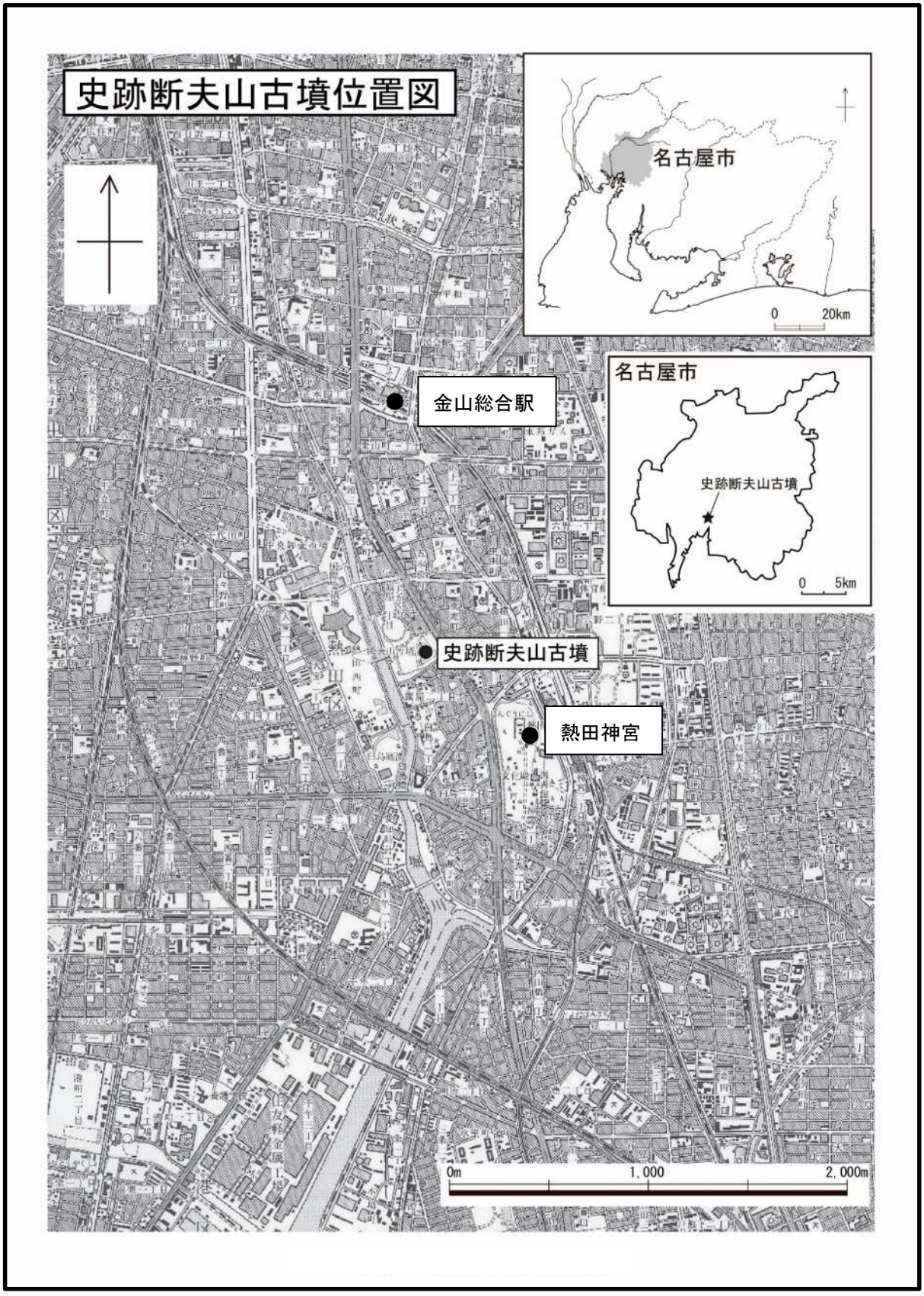
【概要】

断夫山古墳は、名古屋城を北端とし、南方に舌状にのびる熱田台地の南端西縁辺（標高５～６ｍ）に所在する。築造は６世紀前葉で、県下最大かつ東海地方においても最大級の規模を誇る前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）である。また全国的に見ても同時期の古墳では、ヤマト王権[1]の大王墓と考えられている今城塚古墳（いましろづかこふん）（大阪府高槻（たかつき）市）に次ぐ規模である。1987（昭和 62）年にはその学術的・歴史的価値が高いとされ、史跡に指定された。

2020（令和２）年から 2022（令和４）年には、将来にわたる保存と活用を図るため、愛知県と名古屋市教育委員会が共同で古墳の周囲において発掘調査を実施した。発掘調査の結果、古墳の周囲を廻る周濠（しゅうごう）[2]や周堤（しゅうてい）[3]の痕跡等の遺構（いこう）が確認され、周濠からは埴輪（はにわ）[4]や須恵器（すえき）[5]の破片等の遺物（いぶつ）が多く出土した。開発の進んだ名古屋の都市部において、この規模の前方後円墳が良好な状態で残っていることは大変貴重であり、より一層の保護を図るため、墳丘（ふんきゅう）周辺の遺構が残存する範囲を対象に追加指定されることとなった。

---

[1] ヤマト王権：３世紀後半以降に奈良盆地で成立した王権力
[2] 周濠：古墳の墳丘周囲に掘削される濠
[3] 周堤：周濠の外側に構築される堤
[4] 埴輪：古墳の墳丘上や周囲に樹立される焼き物
[5] 須恵器：５世紀以降に窯を用いて生産される陶器


史跡断夫山古墳位置図
名古屋市
0
20km
名古屋市
史跡断夫山古墳
0
5km
金山総合駅
史跡断夫山古墳
熱田神宮
0m
1,000
2,000m

断夫山古墳の位置

指定範囲を示す図

※今後保護を要する範囲

将来的には史跡等として指定し、保護する必要がある範囲のこと。

写真１　断夫山古墳の全景（西上空より）

写真２　周濠確認状況（北西から）

写真３　周濠から出土した埴輪片

※写真の提供元は愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター